

## 資料(19)

## 「信州自由聯合」第一巻第一号(昭和七年(1932)四月二十日発行)

## 目次

- 一 信州農民の進むべき道(南沢袈裟松)
- 二 人間の生活に貨幣は必要であるか(鷹野原長義)
- 三 県下の自主的青年諸君に訴う(伊沢八十吉)
- 四 自由を求めて(増田貞次郎)
- 五 製糸女工さんに訴う(一)(山田彰)
- 六 編集後記(山田彰)

「信州自由聯合」は第二号が昭和七年六月二十日に発行されているが、資料が発見されない。

## 信州農民の進むべき道

——自由聯合主義の精神——

養蚕の郷信州! と呼ばれて今迄苦しみ乍らも何うにか斯うにか喰って暮して来た吾が信州の農民の数年來の齟齬安と製糸工場不振から極度の窮乏に突き陥されてしまった。農民労働者の生活は零落し、食を求めて諸所に流浪しなければならぬ。そうして朝早くから夜遅くまで働いても尚も生活は楽にならないどころか、働けば働くほど喰えなくなる信州農村は毎日毎日都会を目指して出稼ぎする幾多の働き盛りの青年男女を見送らねばならない。これ等青年男女は果して行く先に於て幸福だろうか。働く金を受取ることが出来るだろうか、否それは却って農村を益々疲弊のどん底に陥し入れてしまふ。反対に都会がどんどん膨脹し農村は益々苦しくなり両親や弟妹の前には安楽な生活どころか、ただ暗い餓死道あるのみという悲惨な結果だ。

一昨年よりの饑饉で餓死、心中の悲惨事を繰り返して居る東北の吾々の兄弟も、同じ手段で、とうとう息の根の止まりそうな所まで搾り取られたのだ。そしてアトで、やれ救済だ、同情金だと、或はブル新聞には何等悲惨事は、公報させぬようにやっている、実に憎

むべき奴は都市資本家であり地主である、あまつさえ搾り足らずか、殺し足らずか東北の殆んどの青年を、戦地に引っ張り出す等、実に鬼にも劣る彼奴等である。

私達信州の農民もこのままやっていたらキット東北の兄弟の二ノ舞いを見なくてはならない。では働けばよいのか、否働けば働く程、悲惨な生活は掩い覆さる。そして図々しい資本家や地主共のために甘い汁を吸われ段々枯れ朽ちて行かねばならない。餓死や凍え死に度くない。されば一体私達はどうかすればいいんだ、『餓死か然らずんば闘い』か、残された問題はこれだけだ。

闘い！ そうだ奪われた一切を取り返すために私達は起って闘かわなくてはならない。生活を楽にするために、人間らしい生活をするために私達は飽くまで闘かう。しかし闘いにも色々ある。都市の労働者は労働組合を作って資本家と争って、儲けを勘定し分け前を成るべく沢山取るうとする、農村でも私達が団結して地主と争って小作料を値切ったり、土地取り上げに反対したりする、単に目先の『今少し生活を楽にしたい』だけの望みであって、結果に於ても何んにもならないし利益もないのだ。唯だ一日永く搾られることになっただけなのだ。故に地主や資本家に対する闘いはその様な利己的な目的では駄目で、もっと根本に地主や資本家を跳らせている所の所謂社会制度と経済組織一切を徹底的に衝かなくては到底駄目である。

私達農民が強くなって自分で作ったものは自分達の腹に、米は売らず、又私達労働者は絶対に生産品を奴等にやらずに皆んなで協同一致して都市への物品輸送を断絶したら必ず困窮に陥り狂暴に立ち振舞う奴が出来来る。そ奴との闘い、最初の第一戦で吾々が頑張ってそれに打ち勝ったら、都市は荒れ果てて了うし、忌むべき事件を産む金銭も跡を断ってなくなる。

そうして、楽な生活の第一歩が踏み出せる。然して米を作るのは私達であり、品物を作るのも皆で都会に職工をしていた私達だから、その能力技術でこれ等の人々が協同してやって行ける。

そうすれば可愛い息子を金を得るために町に出すこともなければ、弱い娘を諏訪の製糸工場に通わせなくともよい。そして共に野良に出て働くことが出来るではないか。故に今日只今、信州を初め各県の農民衆がこの訳を理屈抜きに呑み込んで、小さな目先の損得や情実にとらわらず、広く社会の全般に眼をやって不幸なそして悲嘆に喘ぐ仲間のことを考えて強く立ち上り「自給自足」の生活を始めたならば直ちに安楽な、生活相扶け相愛す社会に建て直すことが出来る。

されば全信州県下の農民衆よ自給自足、自主自治の精神を呑み込んで実行にかかろう。可能、不可能を論じている時でない、可能を行なうに不可能な世の中だ。だから強くなって私達の真の闘いがあるのだ。自主自治生活の具体化を語るのはこの小紙片の目的だ。

信州農民労働者諸君！

『信州自由聯合』の黒旗の下に一切をかけて進もう。而して共に皆んなで研究し、行動し、邁進しよう。安楽な世界を目がけて。

# 人間の生活に貨幣は必要であるか

一 長い間、吾々は酷い不景気に苦しめられて来た、そして更に金持の爲になつて、吾々を余計悲惨な生活に陥れた「金輸出再禁止」などという訳の判らぬ政治屋の勝手な小手先仕事のために吾々の窮乏はそのどん底に達した。

都会に於ける失業者の大量生産の悲劇は早や喋々する必要を認めぬものであるが、更に吾々が唯一の収入として都会に送り出す為に作った野菜類はどうだったか、一籠について十銭の運賃を払って市場へ出したところ、その運賃どころか一籠に付いて四九銭宛の損失をせねばならず、仕方なく唯一の収入であり数カ月の間丹精こめて作り上げた野菜類を徒らに畑に積み上げて腐敗するにまかせて肥料にするのほかにないというみじめさだ。

養蚕に於いても同じであつて、上簇まで幾夜か夜の目も寝ずに得たところの、実に労苦の結晶である繭が蚕種代と桑園に施した肥料代をも得ることが出来なかつた。米代に於ても、豊作なるが故に米価が大暴落を来し、農村は豊作飢饉というわけの分らぬ珍現象に食うや食わずの極貧に見舞われた。斯くて農村は働けば働くほどそれに使った費用を損失せねばならぬという状態で、今や農村も都会も言葉で尽されない窮乏のどん底に喘いでいる。

## 二

吾々は、この事実を見て不思議に思わなければならないのは、同じ苦勞をして生産したものであり、人間の生活に取っては同じく大切であるということにおいて少しも変りのない生産物であり乍ら、貨幣という怪物を基にして計算されるときは、或る時は莫大な額になり、又ある時はその半分の値段にもならぬということである。実にこれは、貨幣を中心としての考え方から出発した交換の結果として当然のことであつて、これを近代資本主義生産様式と呼ぶのである。そして、その為、吾々は前に記した様な極端な貧乏の苦痛を味あわなければならないのである。吾々の生活を近代資本主義という、吾々を苦しめるより外に能のない間違つた道に強制的に引きずり込んだものは「貨幣」という怪物である。

今や「貨幣」制度の発達はその絶頂に達しているものであり、金持共の最も大事な完全な搾り取る道具の役目をしてるのであつて、従つて人類の不幸もまたその極であると言わなければならない。

かくの如く人類吾々を苦しめるものとなつて「金」は、果して人類の生活にとってどうしても必要なものであるか。全く彩られた小さな紙切れに過ぎない紙幣、又は金塊というも一種の金属にすぎない之等のものの上に、現在の様な生活を行なわなければならないのだから。——吾々は言う。もしそうだとするなら人間の幸福な生活は永遠に出来ないものである。で吾々はどうしても、万人の幸福の為、に貨幣なしの理想的な生活方法を見出さなければならぬと主張するものなのである。

## 三

吾々は農村に行なわねば生活形態をさして、人類の理想的生活形態であると主張する。土地は実に人類が生活に使う一切の物質を産み出す基礎なのであるから、吾々の生活はここから出発し直さなければならぬのだ、自給自足するのだ。

だから原則として自分の消費する一切のものが自身の手によって生産するのでなくてはならない。そうする事が出来て、始めて真実の欲求（吾々の求めているものの全部）を満たすことが出来るのであって、人間としての生甲斐を見出すことが出来るのであり、人類の文化は初めて正しい道を進むことが出来るのである。であるから農村の吾々は「金」と交換するための生産をやめて、自分が消費するあらゆるものを直接自分の力によって生み出すよう努力せねばならない。これこそ貨幣否定の努力であり、真に農村生活を現在の苦境から救う二つと無い方法である。売らないし、買ひもしない。だから金は不用だ。

## 四

農村生活者が、かく目覚めて右の如き理想の生産をはじめた時に於ては、必ず各人は労働力の最小限度をもって、最大の生産を生むことが目的となつて来る。そしてその為には、個人と個人の協力から部落々々の協同、即ち集団的結合へと生産手段へと自然に拡張して行くのである。例えば集団的共同研究所耕作、醸造、保管分配、等々となつて来るだろう。更に、土地々々の共通した利害のための建物等のためには数部落も、数十部落もお互いのための目的のために自然に結合協同して行くのである。それは貨幣のため物を生産して益々苦境に陥る現在のような生活になされる生産と、全々意味が違つて、実に人類の理想たる最も少ない努力によって最も多量の生産を得るための手段方法なのである。かくてこそ、始めて万人の求むるものは得られる、各人の趣くままに自分等の生命を自由に伸ばし得るのである。これこそ、人類の本当の生活であり、吾々の真に心から望む処のものである。

## 五

最後に残る問題は現在の都会である。農村生活者が前に述べたように生産の考えを改めたときには、農村を欺き、騙つて搾り取ることによつて太つて来た都会は、必ず滅亡した吾々の無政府主義の協同の力で滅亡させる、同時に吾々と同じく貧乏で搾られていた都会の労働者達も、素晴らしい工業生産の技術を持ち帰つて農村の各所に分散し、協同の目的の為に村人と共に手を携えて働くであろう。そこには、今迄のような悲惨や不幸の陰は消えて、お互いに喜び合い、愛し、扶け合つて進む理想社会が生まれるであろうことは断言して憚らない。されば、吾々は主張する。最も大胆に、そして徹底的に貨幣抹殺の行動を取らねばならぬと。

## 県下の自主的青年諸君に訴ふ

県が青年会に対して補助金打ち切りを提案したことに依つて端を発した長野県青年団の自主自治標榜の運動は真に結構なことである。だが然し諸君の言うことと行ないつつあることはそれに大きな誤謬がありはしないか、勿論起つ気力のない骨の髄までの官僚どもには

私も要はない。私の呼び掛けたいのは起とうとする諸君、自主自治の精神で立脚して事を為そうとする諸君だ。言うまでもなく青年会は自主自治機関だ、自治とは果して何か？自治とは手取り早く言えば自分のことは自分でするということだ。自治はそして当然自主でなければならぬ。自分が自分の主人であることが前提でなければ自治は極めて漠としたアヤフヤなものになつて仕舞う。要するに自主自治とは、自分の事は自分でやる、と言うことだ。従つて青年会が自治機関であることは、青年会とは自分達のことは自分達で一切を処理しようとして集る青年の集団であらねばならぬ。自主自治、これは誰が何と言おうと正しいことだ。これは人間の本性であり言葉を変えて言えば自由に聯合する主義であるのだ。完全な自主自治とは先づ支配を認めない即ち権力を認めないのだ。即ち国家権力の一切を否定するのだ、何故ならば自分のことは自分でするのが本領だから何も警察の力を借りたり県の役人共のお節介を受ける必要はない自治機関である。威張つていながらあてもない斯うでもない世話をいい気になつて焼かれているのが現在の青年会だ。自主機関だといながら法律も強権も認めている、これは果して正当だろうか。自治には法律も強権も必要はない筈だ。諸君——犬や牛や鶏はその主人の為に自分の一切を忘れてその目的が何であるうが、どんな結果を齎らそうが一切お構ひなしである。只戦へ戦へと教えられるが故に戦う。闘牛、闘犬、軍鶏等々皆此種の産物である。犬の忠実誠実である所以は完全に其主人の奴隷となつて一切を主人に捧げつくすにある。人間の人間として誇れる所以は「一人の人間たる道を踏むにある」と言つた様な捕え所のない都合的なその場限りの空虚な観念に依つて生きてゐるからではなくて、自分の意志で自分の目的を決め、事の善悪、正邪、不義不徳の凡てを自ら解決の出来る人間意志的な人間、死ですら自ら解決し得る人間であると言うにある。人間が其行為に強固な意志的であり、自律的であることは高等生物の明確な一標識である。常に正義を求め、自由を求めてやまない民族や種族は時に生死の岐路にすら直面させられるが、とまれ、自分自身自律的意志的であることを基調としてその生活を律する。安穩であり平静であり生きられるだけは生存して行くと言つた、無為と倦怠を反発する無価値を発見する。「人は善悪二つの創造者たれ」と絶叫した狂天才の思想はこの種の真理を人類に投げつけた自分が、という嬌慢な心境に遊べとは言わぬ。自分と言う生存、その現存の事実立脚して一切の苦と迫害を切り開いて、狂闘の生を愛せ、愛そのもの、叛逆そのものでなければならぬ。（未完）

## 自由を求めて

▲諏訪郡に於ける農民の生活の困窮は最早や理屈や議論の余地がない程引つまつてゐる、家を持つていても田を持つていても、皆担保や抵当に入つて身動き一つならぬ状態だ、加うるに七年一度の御柱祭は行なわれんとして一種の捨て鉢、何事か為さねばならぬという気分が濃厚に動いてゐる。

製糸工場は未だ休業の処が多く国用糸工場などはその過半が休業状態に在る有様だから、それによつて餓死をあやうく免れていた貧困労働者群は九尺二間のごみためみたな中に、青くなつてゐる、辛じて工場通いの女工だつて一日の賃銀は僅かに十銭、十

五銭だ。村に於ても、町に於ても、これ以上の瘠せ我慢はもう出来ないんだ。政治運動なんかどこへ行っても相手になぞしない。民衆は、あまりによくそのベテンを知っている、我々の運動は、大きなこの転機を目前に控えて新たな覚悟を必要とされた、若い根強い同志が、村に、町に、分散されんとしている。力は張りつめている。民衆の、人類の真の生活目的たる相愛し、扶け合う平和と自由平等の自由聯合主義は各所で強調されている。目の廻る様な急がしさが、我々にやって来るだろう。——南信は動きつつある、マッシングに自由を求めて。

### 製糸女工さんに訴う (一)

浦辺せつ子

昨年の給金を貰わずして仕事をして居る女工さん達、同じく昨年の給金を貰わずにもう春の四月だと言うのに入場する工場も無く失業して居る女工さん達、同じ製糸女工である私からこの一文を送りたいと思います。

工場の公定就業時間は十時間です、なのに皆さん達の工場では昨年から引続いて十二時間、甚だしくは十三時間以上も働かせて居ます。皆さん達は自分の働いている時間が長いと思つた事があるかもしれませんが、朝五時前後にはラッパかサイレンか鈴のけたたましい起床合図でたたき起されて、部屋の掃除と顔を洗うのも急がしく仕事に着く、皆さんは、一度位朝ゆっくり御飯を食べてお髪をゆつてから仕事に就きたいと思つた事があるかもしれません。朝早くから夜は暗くなる迄湯気のもうもうと立つ二百度近い取釜に手を爛らかして仕事を続ける。窓硝子一枚外には春の麗らかな陽が照って、木の芽も萌えようとしている、皆さん達は春の麗らかな野を小鳥の様に飛び廻りたいと考えたことはありませんか、皆さん達はなに気なしに工場の中に働いて居るけれど工場の中は実に恐しく不衛生なのです。工場の中はどのように体に悪いかというと二百度近い取釜から立つあの湯気、湯気の為に工場の中は極度に湿気が高く、冬などは戸外は極端に空気が乾燥しているのに湿度の高い六、七十度の温度の工場から便所や桝置場や食堂へ出ると急激な温度の変化からすぐに気管を痛めます。零れた湯がカチカチに凍り、漬物がサバサバに凍る食堂で震えながら五分間位でご飯をかつ込んで工場へ飛び帰る、早く食べないと寒いので食物がまづいので喉に通らないからです。こんな事から十人の内九人迄が胃腸を悪くしているわけです。皆さん達はゆつくりと畳の上の暖かい食堂で御飯を食べたいと思つた事があるかもしれません。夏は工場の中は九十度位に、取釜の湯気の立つ所、丁度皆さんの顔の辺は百度にも温度が上がっています。一日中皆さんの体全体は汗でぐっしょりで作業服はすっかりぬれていきます。汗と湯気でぬれたこの作業服や着物を着て居る事が実に体に良くないのです、ぬれた衣類で体の体温を奪ってすぐ風邪を引きやすい危険な体になっています。皆さん達のうちで外出する時は手をかくして歩こうとする人が大勢あります、水虫で皆さん達の手は真赤に爛れた、サクサクか油葉がなかったら血が流れて来る荒れた手になっています。定休日には洗濯をした時に血の出る手を見て皆さん達は何か考えやしませんか。

また、又仕事の方を見ても、立ちの悪い藪でB格だA格だと強いられていやしませんか。デニール、糸目、縞目、節、光沢、セリブレン、ああこれ等のあらゆる細部にわたつて実に私達を追い立てるのです。一日皆さん達は話しをする事さえ、よそ見をする事さえ怒鳴られてただ奴隷のように、馬車馬のように働かれています、これが人間の仕事であるかと真実考えた事があるかもしれません。こうした仕事をこうした状態の下に皆さん達は開業から閉業迄続けて、さて年末に皆さん達はその労働の報酬として何を工場から貰って帰りましたか？ 賃銀不払による証書、父兄は農村にいて皆さんのもつて帰る証書を持っていきましたか、不況のどん底にある農村の親兄弟に紙切れ一枚の証書は何をもたらしめたか、この不合理は何によって起り、又皆さん達はどうしなければならぬかを次号からくわしくお話し致したいと思ひますから、この第一号を読んだ方はどしどし発行所へ申込んで下さい。お金のない方へは無料でお送り致しますから。(つづく)

### ◎編集後記

▽多事多難なわが信州の職場からこの「信州自由聯合」を諸君の手許に送ります。出そう出そうとして遂に一カ年の月日を送ってしまったが、私たちの熱と力の一片は遂に貧弱ながらこれをものすることが出来得ました。

△私達にはマンネリ的な言葉であるが、雑誌出してアジることのみが私達の唯一の運動ではない、だが然しこれを刊行することにも大きな意義を持って居らねばならない。私達は目下の信州に是非共その必要を痛感したが故に、総ての障害を突破して痛感した儘を実行に移した訳であります。全国の同志諸君の、そして在信諸君の絶大なる援助を望んでやみません。

△発行所は都合上も東京府に置きましたが、之は止むを得ない事情からでありまして、近く理想通り発行所を信州に移します。だが発行所は東京に置いてこれは飽くまで信州のものであり信州から出すものであることを知っておいて貰いたい、要は発行所如何にあるものではなく「信州自由聯合」の役割如何にあるのですから。

△時は刻々と予期し得ない未来を刻みつつある。信州の前途は余りにも多端だ。私たちはこの時に直面して何をか画し、何をか行なわんか、時は切迫している。諸君元気で。

△この「信州自由聯合」を読んだら是非通信を寄越して下さい、これは俺達、皆んなのものだから。益々健康に培って行こう。



「黒色農民新聞」(「農民の友」改題) 第一号(昭和七年二月一日発行)

—署名人・望月秋幸(治郎)—

## 目次

- 一 何の為の戦争か、目醒めつつある労働者農民
- 二 政友会内閣はなぜ生れたか、金再禁で大儲けする大財閥
- 三 製糸資本家と闘え!
- 四 また、総選挙、だが百姓は政治反対だ
- 五 団結の力で村会をぶつつぶせ
- 六 飢えた農民、地主警察官をケ飛ばす
- 七 晴れの出兵見送る
- 八 〇〇郡村民の差押さえ闘争
- 九 社説「政治と戦争」

### (1) 何の為の戦争か? 目醒めつつある労働者農民

何の為の戦争か? 何の為に、誰の為に、吾々民衆がお互いに×し合わねばならぬか?

かつて日清・日露の両戦役には吾々民衆は多くの父子兄弟を失った揚句二十億円の戦債負担を負わされた、併し民衆はまだブルジョア支配階級の口車に乗ってお互に戦争に勝ったことを名譽と考えていた。

だが此の戦争によって受けた唯一の報酬として永い間重税に苦しめられ貧困のどん底につき落された民衆は、彼の幸徳、大杉の時代より叫び続けられた吾がアナキストの正義の声と相まって漸やくこの戦争というものの正体を知るようになったのだ。

去る昭和六年十一月〇〇日満洲で戦っている日本軍が〇〇屯の夜襲の際など、突喚の叫びと共に敵陣におどり込んだ〇〇少尉が、夜明けで自分の周囲を見廻すに及んで××××したという。

それは、一少隊〇十名の内、彼少尉殿にしたがってこの勇壮なる突喚したものは××××下士××名に卒××名、他はその日の午後××なしとみて××××〇屯に到着したという、誰がすき好んで××を捨てるか、彼等兵隊も一度び軍服をぬいでみればお互に水呑百姓であり日傭労働者である。

国には老父母や妻子が唯一の働き手を奪われその日その日を飢餓におびやかされているのだ。

国家的武力の発動が資本家のより多き利得を求めての弱少国への××で国家に名をかりた金儲けが最大の目的であり、それが戦争であることを知った無産民衆は、たとえそれが少尉殿の××であろうとも、勇敢なる××しになることを躊躇するのは当りまえのことではないか。

満洲事変とは何か? 日清・日露の両戦役で日本が支那から奪いとった種々な利権を、支那が目醒めてくると共に不合理だとして既得権を無視し、日本を危うくするから国家百年の経済的、軍事的基礎をかためる為に出兵するのだという。それも日本の支配階級はひたすら馬賊を討伐するのだと自分に理屈をつける。だが無法に奪われた権利と自由を誰がいつまで黙って忍べようか? しかし諸君! 日本と戦う支那の軍閥もまた資本家とグルになって無産民衆を搾取し戦争に馳りたてる、俺達は戦争絶対××だ!

### (2) 政友会内閣はなぜ生れたか

糸をあやつる三井、三菱の大財閥 金再禁をやらせて大儲けしたい魂胆

民政内閣がぶっ潰れた。安達内相の横車で閣員に確執が生じ閣内不一致という事が表向上の理由だ。だが我利我利亡者共がそんなことで何うして桂冠するものか。今度の政変にも陰で糸をあやつる三井、三菱の二大金融財閥と武藤鐘紡王国の大きな魔の手が動いたのだ。奴等から金を貰っている政府諸公は財閥から辞職を強要された。そして政友会内閣に金輸出再禁止をやらせたい為だ。政友内閣が財閥の命をうけて再禁止したおかげで財閥は一億円近くの金を儲けたのだ。俺達は政治からいい加減に眼をさまさねばならぬ。政治はブルジョアの道具だ!

### (3) 製糸資本家と闘へ!

春挽の操業開始を機会に女工の賃銀不払いを徹底的に闘いとれ。

長野県をはじめ全国各地の製糸家は悪辣な繭の買上げだけでは満足せず、工女に賃金不払いで極端な搾取をやっている。去年の暮の終業には五円、三円の涙金を渡したのはまだ良い方で、汽車賃だけで追っ払った所が大部分だ、まる十一カ月血の出る思いで働いた結果がこれだ。しかも前年、前々年の不払賃銀はビタ一文も支払わない。残金は証文にして、後から家へ送金するからと工女を瞞して追

い返すのだが、後から来るのは「不況につき人員淘汰の都合上解雇」という一片の首きり状だ。悪辣な製糸家はその一方ではどしどし新らしく工女を募集している。うまく借金は棒引にして新工女をまた二、三年タダで働かせて丸儲けという腹だ。これまで工女は瞞されてきたがもう黙ってはいられない。春挽きの開始は眼の前に迫っている、これを機会に徹底的に闘うんだ、左の要求条項を出し貫徹しなかったら断然系を挽かないで頑張れ！

- 一 従業員の不払賃銀の即時支払
- 一 賃銀を月二回現金払にしろ
- 一 解雇者に不払賃銀即時支払
- 一 前借金を無利子にしろ
- 一 最低賃銀を三十五銭に制定
- 一 セリブレンの検査絶対反対

(4) また！ 総選挙、だが百姓は政治反対だ

第六十議会は解散された。また総選挙だ。候補者どもが投票のかき集めにアマイことをぬかして廻るのだ。そんな胡まかしには乗らんとぞ！ 俺たち百姓は政治×対だ。政府のよけいなおせっかいを蹴飛ばして百姓自身の手で解放された共同社会を作るんだ。

農民の解放は農民自身の手で、！

投票拒絶、政治反対

(5) 団結の力で村会をぶつつぶした

北海道網走の寒村でこの不景気に地主村議が請負師と結託して小学校増築を村会に決議した。背負い切れぬ負担に耐えられなくなった俺達百姓は集会所にあつまって相談した上、村会議員も村会も無用だと決議を為し、其足で開催中の村会に殺到しウムを言わず決議を取消しさせた上、村のことは村人全体の相談づくでやるんだと頑張った村議は青くなつて一同辞職してしまった。

(6) 飢えた農民、村主警察官をケ飛ばす

福岡県田川郡の争動。

福岡県田川郡の兄弟達は土地の大地主某が田地に立禁処分をせんとしたので小作人三百名は某地主をやっつけに邸宅に押しかけ、悪

欲肥大漢をコラした。世の中が此の様に行詰って力と頼む息子は兵隊にさらわれて仕舞うし、首の根っこを締める借金。

税金の山 自分で作った米でカユもすすって食えない位取上げられる無茶な小作米をしぼられるのにどうして黙ってじっとして居られるものか。人様に頼って暮しがよくなるのを待っていた日には面白くもねえ人間の乾干が、裏の林で首を縊るのが落だ。この世の中がちょっとともよくなえのは彼等が言う様に世界的な不景気な故ではないんだ。昔景気がよかったと言う時だって、

俺達の懐具合がよかった事はねえのを見たってすぐ分るじゃないか。俺達は自分が何者にも指図をされずに、よい社会を創る為に起上れば、警察の犬共やその親類の消防団、青年団の分らず屋なんかと一緒に牢屋に引張って行くのだ。もうこの状態では小作料をまけてくれ、賃銀を値上げてくれでは、とても俺達は救われる由もない。

自給自足の運動、自分が作るものは自分が使い、都会のものは一切買わんという暮しの樹直しをしなればいけぬ、金を無視する運動だ。その時官犬共は俺達に襲いかかって来るのは分り切っている、その為に俺達の村ではそれに備える役人や委員のない自衛団を作らねばならぬ。敵がサーベルを抜けば、こちらは××の用意で死物狂いの闘いをやるんだ。そうする事のみが俺達百姓を全き解放にさすものである。委員を沢山こしらえている農民組合の奴等は投票をかき集めて代議士になる為に牙を磨いて農民を喰物にしようと待ち構えているぞ。その穴にヒッ掛らぬ様子を付けねばならぬ。都会も農村も血腥い三十二年の暴力的な闘いを目指して進みつつある。

(7) 晴れの出兵見送り

「××の為に」万才、だがキチガイが出来た

万才、万才の声がその時の岡山駅頭をゆるがせていた。満蒙の戦地へ兵士を「国家の誉」の為にと引張って行く。今日はその兵士の晴れの見送り日である。兵士諸君は支那の同じ貧乏人に鉄砲の弾を打ち込むのが嫌なので、浮ばぬ顔付きで「何事も国家の為だ、仕方がない」とあきらめて汽車に乗っていた。

けれど彼に残る年老いた両親、まだ幼い弟妹がある、そして最愛の妻がある。悲しい別れだ。生きて帰れるか死んで骨だけで帰れるか分らないお別れだ。友人と別れる兵士。いとしい妻と別れる兵士。年老いた両親と別れる兵士。あとに残るものは暗い貧乏な家庭。火のない寒い家の中や小作料、重なった肥料の借金。突然若い妻君と年老いた母親が思いつめて汽車の窓の処で気が狂った。官犬は「国家の体面にかかわる」とばかり駅前の交番にひきずって行った。

(8) ○○郡村民の差押え闘争

静岡県○○郡の村民は青年会員等が中心となつて打続く不況の為、相ついで起る税金不払い等による、差押え処分に抗する戦術とし

て、競売の際には、村内にては完全に不買同盟を決議し、若し村内にてこの競売品を買い取る者ある際は、これをボイコットなし、他村の者に買い取らんとする際は村長以下村民協力して極力これを妨害する申合せをしてやがては税金不払同盟、都会商品のボイコット等に伴い、農村の自給自足に向うべく協議中である。

但しここに言う青年会は、そこらにありふれた三八式歩兵銃をかつぎまわって人殺しの真似を以って本分と心得ている官製のそれとは全然その結合を異にしているものであることをつけ加えておく。

### (9) 政治と戦争

日本だけでなく不景気と赤字が世界の隅々まで陰気臭い風をなびかせた。そこで資本家軍閥一束になって〇内で産業合理化という美名にくれて労働者の首を切って飯を食えない様に街頭になげ出し、一方では三杯のめしを一杯に減らし賃銀の値下をやり、奴等は今迄通りの利益を一人で占め様と××強行を平気でやって来たが、それも乍ら目を付けたのがあの未開の広い土地満蒙なのだ。日露戦争、日清戦争の頃と社会の事情も大きな違いになって来た。あの頃の軍部と今の軍部は目的が変わって来ている。現今の軍部は只その一国の軍事的支配権を大切にしてくだでなく暴力団社員、労働大衆のドラ幹（こいつ等はいつも俺達を、資本家に売るより能のない犬共だ）などと一緒に軍部独裁制を樹て（フアシズム）経済的すべて一列の国家権力をかためるべくあせっているのだ。

その手先の一行陸軍大尉××が、満蒙軍事探偵として、交通の便の悪い蒙古の奥の索倫の地に戦争の下準備に出掛けて行って、俺達貧乏な百姓や労働者を×す為に、その用意の為に忠勤を励んでいた処を、支那の官兵に×されたのだ。それはむしろ××の事ではある、スパイが敵に×されるのはあたり前ではないか。で早速日本から支那に対して抗議を申込んだのであるがその時の外務大臣幣原が申込んだのでなし、陸軍当局の将校が申込んだのだ。

それは俺達に意外の気持を起させるものじゃないか。今度の戦争の意義がそこにあるので、もう今では議会の猿芝居の張本人政党屋は今何物でもない只の操り人形、ロボットでしかない。つまり政治がこの世界では屁にも値しないことだ。政治は自分の足許からペシャンコになったのだ。

軍事スパイ××大尉はあたりまえな×され方をしたんだ。軍部の将校はよい戦争の口実が出来たのを喜んで乾杯をした。

「国民の利益」「満蒙特殊の権益の擁護」の名の下に出兵をした。この時俺達百姓労働者は、「食う自由」の下に満蒙に出兵を拒否して内地に××を宣言せねばならぬ。

いざ国内の戦いに用意はいいか。